

市ホームページアドレス  
http://www.city.nishitokyo.lg.jp/

# 西東京の教育

平成25年(2013年)11月1日発行 第60号

=発行= 西東京市教育委員会 TEL 202-8555 西東京市中町1-5-1 電話 042-464-1311 =編集= 西東京市教育委員会 教育部教育企画課

この秋



## 西東京市の魅力を再発見しよう!

~東京文化財ウィーク2013のご案内~



© S.Takishima 2007

西東京市には、縄文時代のマラの跡や、青梅街道の宿場町として栄えた歴史を後世に伝える文化財、武藏野の面影を残す豊かな自然などの魅力が、街のあちこちに散らばっています。この秋、西東京市の歴史、文化財、自然などの魅力を再発見してみませんか。

今年も、文化財を身近に感じていただくために「東京文化財ウィーク」が開催されます。企画事業に参加して、魅力再発見のヒントを見つけてください。

### 「幻の民族学博物館」が保谷にあった!

「西東京市の魅力再発見」で

文化財ウィーク恒例の人気企画の1つ、郷土資料室での写真展。

今年のテーマは、すばり



作成中の「民族学博物館想定ジオラマ」

今では、全国各地に屋外に民家などの展示物をもつ博物館がありますが、その先駆けとなつた日本初の野外博物館は、保谷にあつたことをご存知ですか。

東町4丁目、現在のかえで通りの西に面する約3500坪の敷地に1939年に開館した「民族学博物館」には、武藏野の民家やアイヌの民家などが移築され、博物館本館の内部には、4万7千点もの国内のみならず国外の民具や写真などが収蔵、

展示されていました。

この博物館は、近代資本主義の父といわれる渋沢栄一の孫にあたる渋沢敬三が、理想の博物館として構想し、考現学で著名な今和次郎が当初の設計図を描いたものです。渋沢の理想に共

感し、土地の提供を申し出たのが、保谷在住の在野の民俗学者、高橋文太郎でした。その後、宮本常一などの著名な民俗学者・民族学者もたびたび訪れ、戦中も宮本馨太郎により守られていきましたが、戦後の国内事情などから1962年閉館を余儀なくされ、現在その収蔵資料は、大阪にある国立民族学博物館に移されています。

今年の文化財ウィークでは、人々の業績や思いを明らかにし、それらを未来に繋ぐ道筋を探るシンポジウムを開きます。

併せて市民ボランティアの方々が作成した博物館のイメージジオラマと野外展示物の1つである「武藏野の民家」の模型、パネル写真の展示なども行います。

**東京文化財ウィーク2013**

シンポジウム 「幻の民族学博物館～渋沢敬三・今和次郎・高橋文太郎・宮本馨太郎の夢の軌跡～」

日時：11月10日(日) 午後1時～5時

場所：コール田無駅北口徒歩7分

アクセス：西武新宿線田無駅北口徒歩7分

参加費：無料

申込方法：電話・メールにて申し込み（定員150人に達し次第締め切ります）

申込先：西東京市教育委員会教育部社会教育課  
042-(438)4079・syakyuu@city.nishitokyo.lg.jp

△共催：西東京市教育委員会・下保谷の自然と文化を記録する会

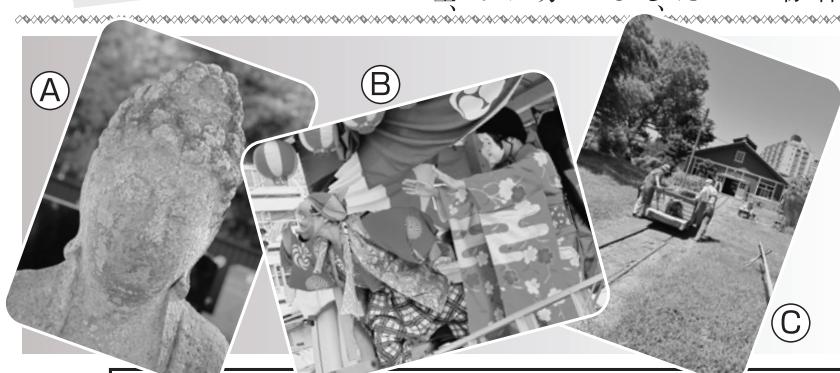
△予定演者：石井正己（東京学芸大学教授）・荻原正三（工学院大学名誉教授）・須藤健一（国立民族学博物館館長）・高田賢（下保谷の自然と文化を記録する会代表）・宮本瑞夫（財）宮本記念財團理事長・森雅雄（城西国際大学准教授）

△その他：会場にて、民族学博物館想定ジオラマ・武藏野の民家模型・写真パネルなどの展示も行います。（展示のみご覧の方は申し込み不要です。）



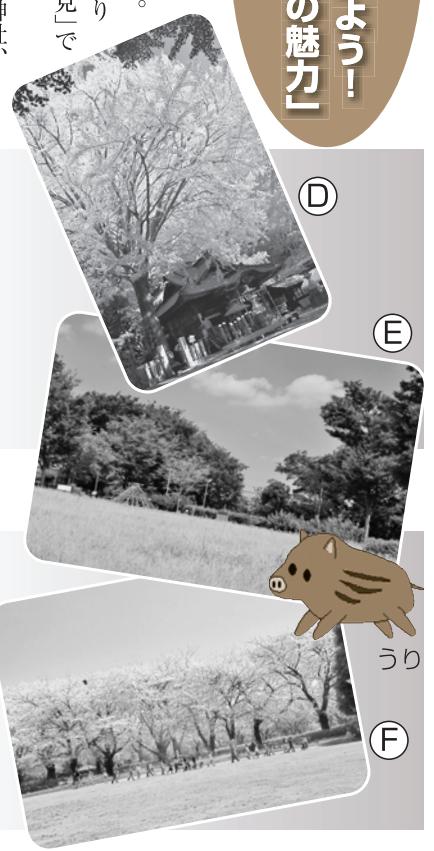
在りし日の民族学博物館  
(西東京市中央図書館提供)

民族学博物館全体イメージ  
(作画 久世アキ子)



写真展「西東京市の魅力再発見～歴史と文化と自然～」

▽日時：10月26日(土)～11月29日(金) ※毎週月・火曜休室  
午前10時～午後5時（入室は午後4時30分まで・最終日は正午まで）  
▽場所：西東京市郷土資料室（西原総合教育施設2階）  
042-(467)1183  
▽アクセス：田無駅北口・ひばりヶ丘駅南口から西武バス  
(田44・07系)で「西原グリーンハイツ」下車徒歩3分  
▽観覧料：無料



写真で見つけよう!  
「西東京市の魅力」



答え

A:釈迦如来像(栄町1-17「寮墓地」内) B:田無団子 C:東大生態調和農学機構(旧東大農場)  
D:田無神社のイチョウ E:下野谷遺跡公園 F:文理台公園

◆社会教育課  
042-(438)4079